

令和4年度東部地区道徳教育研究協議会
春日部市立武里南小学校
【低学年部会】

主 題 名 よいと思うことはすすんで
内容項目 A 善悪の判断、自律、自由と責任
教 材 名 「ぼんたと かんた」
（わたしたちの道徳1・2年」文部科学省）



教材提示の工夫



主体的に考える児童の姿



考える必然性のある発問の工夫

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 導入では、アンケート結果を効果的に活用していた。「してはいけないと分かっているけど、してしまったことはありますか。」という問いは、自分事として考えるきっかけとなった。
- 「遊びに行きたい理由」と「遊びに行かない方がよい理由」を考える場面では、人間のもつ心の弱さについて、教師が児童の発言を共感的に受け止めていた点がよかった。
- 役割演技では、児童が生き生きと自分の考えを表現していた。児童の発言に対して、心を揺さぶるような問い返しをしたことで、登場人物の葛藤する気持ちを深く考えることができた。
- 発問をするときに、場面を想像しやすいように挿絵をタイミングよく提示していた。低学年の児童にとっては、思考しやすくなったと感じた。
- 登場人物が思い悩む場面では、自分がこの場にいたらどんなことを考えるか等、アンケート結果を再度活用して、より自分事として考えさせることもできる。



2 指導講評

- 教師は、児童一人一人をよく見ており、児童の発言を大切に扱っていた。道徳的価値に深く関わる児童の発言を取り上げ、全体に広めていくことができている素晴らしい。
- 遊びに行かない理由として、「怒られるから」という他律的な考えが出たときには、自律的に行動するよさに目を向けさせるために、問い返しをして考えを深めさせていたよかった。
- 役割演技による表現方法は、日頃の積み重ねがあり、児童はよく考えて発言していた。児童の心に揺さぶりをかける教師の問いかけもよかった。共感的に受け止めてくれる雰囲気があるため、児童は安心して自分の考えを表現していた。
- 「なやんだときには・・・」という言葉が板書してあり、自分の生き方につなげるためのよいキーワードになっていた。
- 教師が予想をしていなかった発言が出たときには、道徳的価値について多面的・多角的に考えることにもつながるため、板書に残しておくとうい。

